

## 平成24年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年7月9日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社AFC-HDアムスライフサイエンス  
 コード番号 2927 URL <http://www.ams-life.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 浅山雄彦  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役社長室長 (氏名) 白鳥弘之

TEL 054-281-5238

四半期報告書提出予定日 平成24年7月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年8月期第3四半期の連結業績(平成23年9月1日～平成24年5月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年8月期第3四半期	10,989	2.9	423	△40.3	381	△43.9	406	36.1
23年8月期第3四半期	10,680	△2.4	709	6.6	679	4.0	298	25.2

(注) 包括利益 24年8月期第3四半期 387百万円 (30.7%) 23年8月期第3四半期 296百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年8月期第3四半期	34.06	—
23年8月期第3四半期	25.03	25.02

第1四半期連結会計期間より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」(実務対応報告9号 平成22年6月30日)を適用しております。

第1四半期連結会計期間において株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年8月期第3四半期	17,226	5,666	32.9
23年8月期	17,939	5,457	30.4

(参考) 自己資本 24年8月期第3四半期 5,666百万円 23年8月期 5,457百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年8月期	—	50.00	—	100.00	150.00
24年8月期	—	5.00	—	—	—
24年8月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社では平成23年9月1日付で、1株を10株とする株式分割を行っております。23年8月期は、分割前の発行済株式に対するものであり、24年8月期は、分割後の発行済株式に対する実績及び予定であります。

### 3. 平成24年8月期の連結業績予想(平成23年9月1日～平成24年8月31日)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,800	1.0	580	△43.4	500	△49.8	470	△4.1	39.42

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注) 1株当たりの当期純利益は、発行済株式数11,919,981株により算出しております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年8月期3Q	12,189,720 株	23年8月期	12,189,720 株
② 期末自己株式数	24年8月期3Q	269,739 株	23年8月期	269,690 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年8月期3Q	11,919,992 株	23年8月期3Q	11,915,870 株

第1四半期連結会計期間において株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、23年8月期の期末発行済株式数及び期末自己株式数、23年8月期3Qの期中平均株式数を算出しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・当社は、平成23年9月1日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を実施しております。
- ・本資料に記載されている業績の見通し等将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業務等は様々な要因により大きくなる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信の添付資料3ページ「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(その他)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成23年9月1日～平成24年5月31日）におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による落ち込みから持ち直しの動きがみられたものの、欧州債務危機、為替や株価の変動などにより依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループが属する健康食品業界は、消費者の健康維持・増進、アンチエイジング意識の高さから今後も需要が高まると予想され、特に団塊世代を中心に健康志向は益々拡大すると思われま

す。当社グループにおいては、新工場を立上げ、従来と比べて生産能力を大幅にアップいたしました。また、AFCブランドの強化として、販売子会社3社合併のほか、広告宣伝、店舗の拡充、商品の充実に努めました。

以上の結果、当第3四半期連結売上高は、基幹であるOEM部門の堅調により10,989百万円（前年同期比2.9%増）となりました。損益面については、新工場稼動に伴う固定費が大幅に増加し、営業利益423百万円（前年同期比40.3%減）、経常利益381百万円（前年同期比43.9%減）となりましたが、新工場関係の補助金収入313百万円を特別利益に計上したため、四半期純利益は、前年同期比36.1%増の406百万円となりました。

本社工場・第二工場に続き、新工場である国吉田工場も6月に健康補助食品GMP適合工場の認証について取得いたしました。更なる売上拡大を目指すために営業担当の人材育成や品質保証の充実を図る一層の努力を進めてまいります。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

## ①ヘルスケア事業

## ・OEM部門

当社主力事業であるOEM部門は、既存顧客の受注伸長などにより、売上高は前年同期比25.9%増と堅調に推移いたしました。特に通販業関係先からの受注増加が目立った背景には、当社の製造技術力、品質保証体制など、顧客先に対する信頼性が高く評価されたものと考えます。素材としては、市場動向とほぼ一致した関節・アイケア・美容・伝統食材関連が好調で、ダイエット商材も安定的に推移いたしました。なお、生産面においては新工場稼動によりキャパシティも順調に向上しており、製造機器（約1.5億円）の増強を決定しました。

## ・海外部門

アジア地域を主な取引先とする当部門は、主力商材であるコラーゲンドリンクの在庫調整により販売量は減少したものの、依然美容関連素材の要望は多く、また、積極的な営業活動により、香港で新規OEM取引がスタートするなど、売上高は前年同期並みの結果となりました。

## ・通信販売部門

長引く個人消費の低迷、同業他社との競争激化などにより、当部門の売上高は前年同期を下回る結果となりました。しかしながら、売れ筋商品である「爽快柑シャンプー」や「ファインリペアベール」はTVショッピングなどの広告宣伝活動により安定した売上を確保いたしました。また、新規顧客の獲得は引き続き堅調に推移しており、固定顧客化に向けたリピート促進活動の成果も徐々にあらわれております。

## ・卸販売部門

インターネット販売の浸透による価格競争の激化や消費マインドの低下など取引先となる小売店業界は厳しい状況が続いております。当部門は、積極的な広告販促活動に注力するものの、健康食品における主力商品の不在、震災以降続く自然食品の低迷、雑貨主力商品「サトリーナ」の切り替え時期による落ち込みなどにより、売上高は前年同期を下回る結果となりました。

## ・店舗販売部門

百貨店業界の低迷が続く中、DMや、サンプル交換チケット配布など店舗への集客・新規開拓に努めるとともに、試飲やセミナー開催など積極的な販促活動を実施し、飲料「野菜の極(きわみ)」、健康食品「コラーゲン青汁」・「La Vie PLACENTA」が好調に推移いたしました。しかしながら、放射能汚染による国産ブランドへの不信任は根強く、自然食品を扱う正直村ショップの減収、また業界全体の集客力不足も影響し、当部門の売上高は前年同期を下回る結果となりました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高9,763百万円（前年同期比4.2%増）（セグメント間内部売上高含む）、営業利益709百万円（前年同期比27.1%減）（配賦不能営業費用控除前）となりました。

②医薬品事業

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、ドラッグストアで購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医療用医薬品事業は、主力の製造承認を取得した医療用漢方製剤40品目について、医師、薬剤師及び医薬品卸の営業担当者に対して、品質・安全性の確保に対する取り組みのほか、同業他社の製品と比べ効果効果の同等性が極めて高いこと及び患者さんの経済的負担（医療費の自己負担）が小さいことなどを説明してきました。また、一般用医薬品事業についても、リニューアル製品の投入、積極的な営業活動及び販売促進活動などを行いました。特にドラッグストアの商品担当者に対して、当該製品の医療現場での臨床例などを中心に情報提供活動を展開してきました。

しかし、両事業とも同業他社との競争激化に加え、販売促進活動の不振が響き、医薬品事業の売上高は1,226百万円（前年同期比6.6%減）、営業利益37百万円（前年同期比31.5%減）となりました。

今後は上記の取り組みに加え、医療用医薬品事業については、初の自社ブランドの後発医薬品を、また、一般用医薬品事業については取り扱い品目を大幅に投入するなどし、売上アップを図ります。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①流動資産

当第3四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ292百万円減少し、7,957百万円となりました。この減少要因は主として、商品及び製品が108百万円増加した反面、受取手形及び売掛金が400百万円減少したことによるものであります。

②固定資産

当第3四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ420百万円減少し、9,269百万円となりました。この減少要因は主として、減価償却などにより有形固定資産が421百万円減少したことによるものであります。

③流動負債

当第3四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ305百万円増加し、6,899百万円となりました。この増加要因は主として、未払法人税等が207百万円、支払手形及び買掛金が198百万円減少した反面、短期借入金が780百万円増加したことによるものであります。

④固定負債

当第3四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,226百万円減少し、4,660百万円となりました。この減少要因は主として、長期借入金1,119百万円減少したことによるものであります。

⑤純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ208百万円増加し、5,666百万円となりました。この増加要因は主として、四半期純利益の計上により利益剰余金が227百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

最近の業績動向を踏まえ、平成23年10月14日に公表の平成24年8月期業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日発表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. サマリー情報(その他)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

#### 1 株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用

第1 四半期連結会計期間より、「1 株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)、「1 株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日)及び「1 株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第9号 平成22年6月30日)を適用しております。

第1 四半期連結会計期間において株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1 株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1 株当たり四半期純利益を算定しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,697,563	3,720,884
受取手形及び売掛金	2,227,489	1,826,913
有価証券	57,440	—
商品及び製品	810,816	919,044
仕掛品	474,207	535,221
原材料及び貯蔵品	599,064	688,636
その他	443,964	316,681
貸倒引当金	△60,780	△50,126
流動資産合計	8,249,765	7,957,255
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,708,947	3,509,760
土地	3,785,709	3,784,329
その他(純額)	1,433,905	1,213,448
有形固定資産合計	8,928,562	8,507,539
無形固定資産		
のれん	107,513	44,603
その他	46,265	70,847
無形固定資産合計	153,778	115,450
投資その他の資産		
その他	622,347	657,955
貸倒引当金	△15,082	△11,594
投資その他の資産合計	607,264	646,361
固定資産合計	9,689,606	9,269,351
資産合計	17,939,371	17,226,607
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,727,490	1,528,912
短期借入金	3,425,407	4,206,276
未払法人税等	222,876	15,400
賞与引当金	125,100	226,800
ポイント引当金	58,000	51,000
その他	1,035,266	871,492
流動負債合計	6,594,140	6,899,880
固定負債		
社債	650,000	600,000
長期借入金	3,820,012	2,701,007
役員退職慰労引当金	329,205	338,057

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年5月31日)
退職給付引当金	138,903	159,289
負ののれん	21,168	5,210
その他	928,090	857,032
固定負債合計	5,887,380	4,660,596
負債合計	12,481,520	11,560,477
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,405,498	1,405,498
資本剰余金	1,482,684	1,482,684
利益剰余金	2,829,224	3,056,446
自己株式	△198,929	△198,961
株主資本合計	5,518,477	5,745,667
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△60,626	△79,538
その他の包括利益累計額合計	△60,626	△79,538
純資産合計	5,457,851	5,666,129
負債純資産合計	17,939,371	17,226,607



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年9月1日 至平成23年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年5月31日)
売上高	10,680,967	10,989,840
売上原価	6,691,582	7,497,557
売上総利益	3,989,385	3,492,283
販売費及び一般管理費	3,279,495	3,068,514
営業利益	709,889	423,768
営業外収益		
受取利息	286	252
受取配当金	20,020	5,679
負ののれん償却額	28,386	15,958
助成金収入	16,135	17,026
貸倒引当金戻入額	—	7,682
その他	12,244	24,571
営業外収益合計	77,073	71,169
営業外費用		
支払利息	62,367	107,996
シンジケートローン手数料	42,032	—
その他	3,288	5,601
営業外費用合計	107,689	113,597
経常利益	679,274	381,341
特別利益		
固定資産売却益	291	—
有価証券償還益	—	1,730
補助金収入	—	313,125
特別利益合計	291	314,855
特別損失		
固定資産除却損	3,584	3,667
減損損失	29,114	3,279
投資有価証券評価損	656	384
関係会社出資金評価損	12,487	—
特別損失合計	45,843	7,331
税金等調整前四半期純利益	633,722	688,865
法人税、住民税及び事業税	349,197	178,762
法人税等調整額	△13,769	104,080
法人税等合計	335,428	282,842
少数株主損益調整前四半期純利益	298,294	406,022
四半期純利益	298,294	406,022

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年9月1日 至平成23年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	298,294	406,022
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,223	△18,911
その他の包括利益合計	△2,223	△18,911
四半期包括利益	296,070	387,110
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	296,070	387,110
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成22年9月1日 至 平成23年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	9,367,810	1,313,157	10,680,967
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	9,367,810	1,313,157	10,680,967
セグメント利益	974,090	55,169	1,029,259

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,029,259
全社費用(注)	△319,369
四半期連結損益計算書の営業利益	709,889

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 平成23年9月1日 至 平成24年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	9,763,058	1,226,781	10,989,840
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	9,763,058	1,226,781	10,989,840
セグメント利益	709,931	37,765	747,696

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	747,696
全社費用(注)	△323,928
四半期連結損益計算書の営業利益	423,768

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。